

令和6年第6回教育委員会会議

1 日 時

令和6年6月24日(月)

開会 11時00分

閉会 12時00分

2 場 所

県庁行政庁舎 17階 教育委員会室

3 出席者

北野喜樹教育長、新屋長二郎委員、眞鍋知子委員、新家久司委員、高野勝委員、辻奈穂子委員

4 説明のため出席した職員

原敬教育次長、塩田憲司教育次長、金子俊一教育次長、北島公之教育次長兼学校指導課長、筒井諒太郎事務局課長、山本一彦庶務課長、高倉英明教職員課長、岩木智子生涯学習課長、池田正明文化財課長、瀬戸博邦保健体育課長

5 議案件名及び採決の結果

議案第16号 令和7～10年度使用中学校用教科書石川県教科用図書選定資料について（原案可決）

議案第17号 令和7～10年度使用中学校用教科書（「特別の教科 道徳」）石川県教科用図書選定資料について（原案可決）

議案第18号 令和7年度用一般図書選定資料について（原案可決）

議案第19号 石川県社会教育委員の委嘱について（原案可決）

議案第20号 石川県生涯学習審議会委員の任命について（原案可決）

6 報告

報告第1号 令和7年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の志願状況について

報告第2号 令和7年度石川県立学校実習助手採用候補者選考試験の実施について

報告第3号 石川県立あすなろ中学校の開校に向けて

報告第4号 令和7年度石川県公立高等学校入学者選抜方法について

報告第5号 令和6年3月石川県公立高等学校卒業者の進路状況について

報告第6号 令和5年石川県優良部活動指導者表彰について

7 審議の概要

・開会宣告

北野教育長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第16号、議案第17号及び議案第18号は教科書採択に関する案件のため、議案第19号及び議案第20号は人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項に基づき非公開とすることを全会一致で決定。

・質疑要旨

以下のとおり。

報告第1号 令和7年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の志願状況について（高倉教職員課長説明）

資料15ページをご覧ください。

報告第1号、「令和7年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の志願状況」について、ご説明いたします。

本試験につきましては、去る4月30日から出願の受付を開始し、5月31日に締め切りました。

志願状況について、概要を報告させていただきます。

上段の表の一番下の計の欄を御覧下さい。

令和7年度の採用見込数につきましては、前回の当委員会で、昨年度と同じ315人と報告いたしました。これに対して志願者数は954人で、昨年度より54人減少し、全体の倍率は、昨年度より0.2ポイント低い3.0倍となりました。

受験区別の状況でございますが、小学校教諭等につきましては、140人の採用見込に対し、314人の志願があり、倍率は2.2倍、中学校・高等学校教諭等につきましては、135人の採用見込のところ、488人の志願があり、倍率は3.6倍、特別支援学校教諭等につきましては、小・中・高等部あわせて35人の採用見込のところ、48人の志願があり、倍率は1.4倍となっております。

養護教諭につきましては、5人の採用見込に対し、89人の志願があり、倍率は17.8倍となっております。

栄養教諭につきましては、15人の志願がありました。

なお、昨年度新たに導入した、大学3年次で筆記試験・実技試験の受験を可能とする特別選考につきましては、資料の中ほどの表の通り、志願者総数954人とは別に、127人の志願がありました。

なお、志願状況につきましては、6月18日にホームページで既に公表をしております。

以上でございます。

【質疑】

（新屋委員）

前にも質問したことがあると思うんですけども、ずっとこの300人を超える採用見込を維持してますけれどもかなり世代交代も進んで、一方、児童生徒の数も減ってきているわけですから増える要素も難しいとかであるとは思いますが、いつ頃までとか何か見通しっていうのはあるんですか、この見込み数をそろそろ絞り込んでいってもいいんじゃないかなというふうには思うんですけども、そうはいかないんでしょうか。

（高倉教職員課長）

経過につきましては毎年見直しをしております。その中でやはり今ほどお話もありましたように少人数が入ってきたり教科担任制が入ってきたり、様々なきめ細かい対応っていうのが出てきておまして、その中で300人をなかなか減らせない状況になっております。

(新屋委員)

もう一つですけど、今文科省から選考試験を前倒ししなさいということで、あの新聞記事によればかなりの都道府県で前倒しでやっていると思うんですけども、この特別選考区分Cのところの小学校教諭等が大幅増となっておりますけれど、このところをもっと工夫してもっと先行的な試験じゃないですけど、早く安心したい学生さんがいるとしたら、この辺のところをもうちょっと改善して、3年次で合格したら、次の年はほぼ合格できそうみたいなそういう感じのことを考えたらいんじゃないかなと勝手に思ったんですけどいかがでしょうか。

(高倉教職員課長)

今ほどお話ありました、特別選考区分C、大学3年生を対象とした選考につきましては、昨年度初年度ということで大学生、受験生の方も様子を見ていたような感じがあります。

ただ昨年度終わりました、大体傾向がつかめたということで今年度大幅な増加がございました。ただ大学側としても、教育実習を終えない段階でなかなか受験者が将来を決めるっていうのは難しいという課題とかも聞いております。

できるだけこういう複数回の試験を実施しながら、良い先生を確保していきたいと考えております。

(辻委員)

養護教諭というのは人気があるように見えるのですが、これはどういう理由でしょうか。

(高倉教職員課長)

人気と言いますか、養護教諭というのは各学校に1名か2名しかいませんので、なかなか退職される方が出てこないっていう部分がございます。その中で金沢大学に養護教諭を教えるところがありまして、そのような受験生の方が多く毎年受けております。今年度退職との関係から定員を半分に減らしましたところ倍率がこのようになったということです。

(高野委員)

今年2.2倍なんですけども、ここ数年の人数を見ていきますとだんだん下がってきてるんですね。このままいったら来年、再来年には2倍を切ってしまうんじゃないかそういうふうな危惧があるんですよね。だからと言ってこれ以上たくさん教員を採用しようとして今の方法であったとしても、もう絞るだけ絞ってこれ以上増える要素はないと思うんです。過去何年間も一生懸命教員のなり手を探してきたのは事実ですから、それでこの結果ですから、やはり今後採用の幅を広げて例えば東京都がやってるみたいな社会人に対して、教員免許がなくても受験させるとか、その後2年以内で教員免許を取るという縛りがあるんですけども、免許のない人にも受けさせるとか、それから他の地方で教員をやってる人間をUターンじゃなくてIターンって形で、石川県に移住する形で教員を特に条件よく採用する形で、従来の形で教員のなり手を探すんじゃないくて、新たな方法で人数を増やすことを考えないと必ず2倍を切るという気がするんですけどもこのあたりに関してはどのようにお考えでしょうか。

(高倉教職員課長)

我々もそういう認識をしているところであります。そんな中で今回何とか2倍以上確保できている。全国の状況を見ますと、2倍を切っている県が結構ある状況です。あと教員養成の学部は、実は昨年度よりも増えてきている。それほど減っていないという状況です。それよりも教員養成系の学部以外から先生になる方が減っているということで、そちらの方が今大きな課題としているところで、まずは地元の大学にお願いして教員養成系以外の学部の方に集まってもらって説明会を行う。そんなところから始めているということでございます。

(高野委員)

新たな幅を広げるということで、例えば教員免許なしの社会人も試験を受けられるとか、それからIターンとか他の方法で加えるという選択肢は考えないということでしょうか。

(高倉教職員課長)

今はそれは文科の方からも特別研究所の活用っていうのをもうちょっと緩やかにして、いう話がありますのでそちらの方でもそういうところを検討しているところでございます。

あと今回の試験に限って言えば県外から受けてくださっている方が昨年よりも増えてきている。そこは途中またいろんな試験の在り方を検討していきたい。

(眞鍋委員)

特別選考区分Cに関してですけれども、昨年度、小学校教諭66人志願者のうち、何人の方が合格されていて、その方々の100%の方々が今回の小学校教諭志願者数314人に含まれているのかちょっと数字を教えてくださいと思います。

(高倉教職員課長)

昨年度66名のうち32名の方が基準に到達しています。今年度はその中の31名の方が受験している状況でございます。

報告第2号 令和7年度石川県立学校実習助手採用候補者選考試験の実施について
(高倉教職員課長説明)

資料の16ページをご覧ください。

報告第2号、「令和7年度石川県立学校実習助手採用候補者選考試験の実施について」説明いたします。

昨年度、22年ぶりに実施しました県立学校実習助手採用候補者選考試験について、今年度も実施いたします。

実習助手の職務内容は、主に、実験又は実習について、教諭の職務を助けることでもあります。

今後の退職状況を踏まえ、実習中の安全性の確保や専門的な指導力の維持・向上を図るために、昨年度実施しました農業、工業分野に加えて、今年度は理科分野においても、若干名の正規実習助手を採用することといたしました。

募集期間は8月16日(金)から8月30日(金)までとし、選考試験は、県立金沢西高等学校において、一般知識及び専門教育に関する基礎的な専門知識を問う総合教養と実習助手としての意欲、適性等をみる作文を含めた筆記試験、適性検査及び個人面接を9月29日(日)に実施することとしております。

選考結果につきましては、10月25日(金)に通知を発送し、併せて、同日の午後3時に県教育委員会のホームページに掲載することとしており、しっかりと能力・資質を見極めて採用決定したいと考えております。

なお、昨年度同日に実施しました「石川県立盲学校・ろう学校寄宿舎指導員採用候補者選考試験」につきましては、今年度は実施いたしません。

以上で、報告第2号の説明を終わります。

【質疑】

特になし。

報告第3号 石川県立あすなろ中学校の開校に向けて（北島次長兼学校指導課長説明）

17ページをご覧ください。

石川県立あすなろ中学校の開校に関して、ご報告いたします。

まずは、項目1ですが、先般開催しました学校説明会及び個別相談会についてですが、(1)の会場・日時は記載のとおりです。

(2)の内容については、日本語が分からない方もいらっしゃったことから、開会・閉会の挨拶や配付資料については、翻訳も表示しながら行うなど、様々な方々に理解していただけるよう配慮しました。

また、実際の授業のイメージを持っていただけるよう授業のデモンストレーションも行いました。

(3)の参加状況については、入学希望者の他、その保護者やご友人・支援者、学校関係者等、合わせて50名以上の方々にご参加いただきました。能登会場につきましては、当日の参加者は9名、個別相談会の希望はございませんでした。

今後の体験授業・入学説明会につきましては、夏以降、改修が終わった教室を活用して、項目2にありますとおり日時、会場、内容で実施いたします。

特に、体験授業につきましては、国語や数学、英語などの通常の教科に加え、日本語の習得に重点を置く方のために、日本語の授業も行う予定です。

入学を希望・検討している方には是非、参加していただきたいと考えており、まずは周知に努めてまいります。

詳細については、別紙をご参照ください。次回の本会議では、生徒募集についてお諮りする予定です。

あすなろ中学校開校に向けてのご報告は、以上です。

【質疑】

(新屋委員)

一つ質問ですけれども、参加者数、加賀から10名っていうことのようにすけれども、その中で対応、外国語とありますけれども、外国籍の方ってのはどれぐらいいらっしゃったのでしょうか。

(北島次長兼学校指導課長)

外国籍はちょっとわからないですけども、日本語以外の言語対応を必要とする方ということで、加賀では2名、金沢では2名、能登で1名ということです。

報告第4号 令和7年度石川県公立高等学校入学者選抜方法について（北島次長兼
学校指導課長説明）

令和7年度公立高等学校入学者選抜方法について、ご報告いたします。

それでは資料20ページになります。

まず、1の推薦入学について、(1)の推薦入学実施校ですが、アの通り、全日制の普通科で推薦を実施するのは、ご覧の10校で、前年からの変更はございません。

イをご覧ください。

全日制の普通科におけるコース、専門学科、及び、総合学科で推薦を実施するのはご覧の21校で、こちらも前年からの変更はございません。

また、ウの定時制における実施校も、前年同様、ございません。

次に、21ページです。

(2)の推薦枠及び検査科目をご覧ください。

先の教育委員会会議でご審議いただき、決定された入学者選抜方針では、推薦枠について、

- ・コースを除く普通科は、募集定員の25%以内、
 - ・普通科におけるコース、専門学科及び総合学科は募集定員の30%以内
- となっております。

その選抜方針を受け、志望動機がより明確で、適性、興味及び関心がより高い者を選抜するため、それぞれの学校において、近年の出願倍率や地元中学生の動向を踏まえ、推薦枠を設定したものであります。

今年度、推薦枠を変更した学校は、全日制24校中、4校6学科・コースであります。そのうち、3校4学科が推薦枠を引き上げ、1校2学科・コースが推薦枠を引き下げております。詳しく申します。小松工業高校の材料化学科では、昨年度、推薦入試の志願者が10名の枠に15名と多かったことから、推薦の段階で本科を志望する生徒をできるだけ多く受検させることに加え、本校の他学科と足並みを合わせた推薦枠にするため、材料化学科の推薦枠を25%から30%に引き上げております。

能登高校では、全国募集の実施による志願者増を見込み、普通科は推薦枠を15%から20%に、地域産業科は20%から25%に引き上げております。

小松市立高校では、近年の推薦入試の志願者が増えたことに加え、推薦入試での入学者の多くが、クラスや部活動の中心となっていることを踏まえ、普通科の推薦枠を20%から25%に引き上げております。

一方、志賀高校は、近年の出願倍率や地元中学生の動向を考慮し、普通科の推薦枠を25%から20%に引き下げました。

検査科目につきましては、前年度からの変更はございません。

次に、22ページをご覧ください。

(3)の推薦要件であります、

アの「普通科（コースを除く。）の推薦入学」実施校、

イの「普通科におけるコース、専門学科及び総合学科の推薦入学」実施校
につきましては、変更はございません。

また、ウの「全国募集における推薦入学」実施校につきましては、推薦要件の変更はありませんが、全国募集を実施する学校、及び、募集を行う上での特色ある教育活動について、一部変更がございます。

次のページの別表をご覧ください。

全国募集実施校につきましては、全国にアピールできる教育活動を行っていることや、地元市町や周辺地域の理解や協力が得られることといった条件を満たす学校のうち、志願の状況や学校長の意見を踏まえ、ご覧の通りの8校といたします。今回から新たに鶴来高校が加わっております。

鶴来高校普通科スポーツ科学コースは、全国レベルの部活動実績を有している生徒も多く、全国募集を取り入れることで本校の強みにさらに磨きをかけたい、加えて、寄宿舎を所有しており、県外の生徒を受け入れることが可能であるとのことです。

また、能登高校地域産業科は、前年度は、全国募集を対象とする特色ある教育活動を「ソフトテニス」と「地域産業（水産）」としていましたが、今回は、「ソフトテニス」と「能登里山里海産業」という表記に変更しました。

その変更意図としては、前年度募集した「ソフトテニス」と「水産」に加え、本校が有する農業、水産、ビジネスの学習分野において、能登の里山里海を生かした農業、水産、商業を取り込んだ学習ができることを全国に発信したいとのことでもあります。

次に24ページの(2)の外国人生徒等に係る特別入学についてです。

実施校については、地域バランスや本県における日本語指導が必要な児童生徒数の在籍状況、実態等を考慮して、全日制加賀、寺井、松任、金沢辰巳丘の普通科普通コース、宝達、鹿西、穴水の7校、定時制は全6校の計13校とし、前年度からの変更はございません。

次に、25ページをご覧ください。

3 一般入学についてご説明します。

(1)の一般入学の学力検査以外の検査科目を実施する学校について、全日制課程の学校、定時制課程の学校とも、前年度からの変更はございません。

また、(2)の傾斜配点実施校は、前年度同様ありません。

令和7年度石川県公立高校入学者選抜方法についての報告は以上です。

【質疑】

(新家委員)

23ページの全国募集についてお聞きしたい。ご説明の中で全国に発信という言葉がされてたもんですから、どのような形で、媒体を持って全国に発信をしているのか。

その結果、昨年度でいいので何人ぐらい、門前の方は何か新聞マスコミで報道されてるんですけども、他その何人ぐらい県外から石川県の学校においでたのか。というのを教えてください

(北島次長兼学校指導課長)

各学校の発信の方法でございますけれども、各学校はこれが強化されればホームページにアップするという、それからかなりこの部活動関係が多いんですけども、部活動の顧問がいろいろ遠征で県外に行くとき、あるいは知人とかで、うちの学校は全国募集するんだっていうところのPRを同じ部活動の中でやると。それでその地区の中学校に伝わるように紹介するというのを聞いています。

それから、昨年の実績でございますけれども、昨年はトータルで申しますと、県外からの合格者数が10名でございました。

七尾東雲で2名、志賀高校1名、能登高校が4名で、門前高校が3名、ございました。

(新家委員)。

意見としてですね、発信の仕方。要は学校のホームページもそうで、要はスポーツ関係が多いんで、要はスポーツ関係の監督さんか部長さんかよくわかりませんが、ヘッドハンティングしてくるって話だと思っんですが、それだけではなくて何かもっと何か考えた方がいいんじゃないかなっていうふうな、確かなこと言えないんですけども、全国に募集している高校のホームページみたいなのがあったような気がするんです。

だからそういうところにも載せるとか、何かもうちょっと一考された方がいいんじゃないかなっていうふうに思っ聞いておりました。

(北島次長兼学校指導課長)

ありがとうございます。今のご指摘は、おそらく全国でいうと地域未来留学っていう制度があっ、それに関わることかなと思います。実際そこを活用している学校でPR、発信しているという学校も実際のところはございます。

ただいかにせんお金もかかることございまして、そこは学校との兼ね合いという状況です。

報告第5号 令和6年3月石川県公立高等学校卒業者の進路状況について（北島次長兼学校指導課長説明）

「令和6年3月石川県公立高等学校卒業者の進路状況」について、ご報告いたします。資料の26頁をご覧ください。

初めに全日制課程についてですが、卒業者は6,023名で、前年より361名減少となっております。

うち、大学・短大進学者は3,612名で、卒業者全体に対する割合は60.0%、前年より1.8ポイント増加しております。

なお、国公立大学への進学者は1,575名、卒業者全体の26.1%で、5年連続で増加しております。また表にはありませんが、県内大学への進学者は、大学進学者全体の50.6%でした。ここ数年は50%前後で推移しています。

また、専修学校・各種学校等への入学者は988名と、卒業者全体に対する割合は16.4%で、前年より1.8ポイント減少しました。

一方、就職については1,293名と、卒業者全体に対する割合は21.5%で、前年より0.1ポイント増加しました。

次に、定時制課程についてですが、卒業者は131名で、前年より5名減少となっております。大学・短大進学者は26名で、前年より9名増加し、専修・各種学校等入学者は30名で昨年度に比べて13名減少しました。また、就職者は46名で、前年と同数でした。

続いて、通信制課程についてですが、卒業者は163名で、前年度より32名増加しています。大学・短大進学者は46名で前年より10名増加しています。就職者は18名で、昨年より2名増加しました。

以上、まとめますと、進学については、全日制・定時制・通信制ともに大学・短大への進学者の卒業生に占める割合が増加し、専修学校・各種学校等への割合が減少しております。

就職については、全日制・定時制・通信制において、多少増減はありますが、概ね前年度と同様の割合となっております。

なお、能登半島地震の影響が心配されましたが、公立高等学校の3月末の就職内定率は99.5%と、14年連続で99%台の結果となりました。この就職内定率の高さは、生徒や教職員の頑張りはもちろん、多くの関係機関にご協力をいただいた結果と考えております。

全日制、定時制、通信制のいずれの学校におきましても、生徒、保護者の希望に応えるべく、学習指導や進路指導に力を尽くしているところであり、今後も、生徒が主体的に進路を選択できるよう、適切な職業観・勤労観を育成する等、キャリア教育の充実を図り、関係機関との連携・協力を進め、学校の支援につとめてまいります。

以上で、令和6年3月石川県公立高等学校卒業者の進路状況についての説明を終わります。

【質疑】

（眞鍋委員）

その他のところにちょっと注目しているんですけども、全日制課程だと例えば、浪人される方はその他に含まれるんでしょうかっていうことと、通信制課程で

その他の方の割合が非常に多いと思うんですけども、その方々の進路はどのようになっていますかってことを教えてください。

(北島次長兼学校指導課長)

その他の内訳でございますけれども、例えば全日制課程 130 という数字が上がっておりますが、多いところで言いますと自宅浪人が多いです。予備校に通っているのはここには入りません。自宅浪人、就職活動、それから一時的な仕事いわゆるアルバイト、家事手伝いとそういった内訳となっております。多いのはそういうことです。

それから通信制も 61 名という数字が上がっておりますけれども、やはり一番多いのは、一時的な仕事、いわゆるアルバイトが多いです。次に多いのがやはり就職活動。そして先ほど同じです。自宅浪人。これがやっぱりベストスリーとなっております。

報告第6号 令和5年石川県優良部活動指導者表彰について（瀬戸保健体育課長説明）

報告第6号、「令和5年石川県優良部活動指導者表彰」につきまして、ご報告いたします。

27ページをご覧ください。

この表彰は、例年2月に実施しており、本年2月に報告する予定でしたが、能登半島地震の影響により延期していたところであります。

「1 目的」につきましては、学校部活動等において、特に顕著な指導力を発揮することにより、本県教育の振興・発展に寄与した指導者を表彰するものであり、平成13年度から実施しております。

学校教育の一環として位置づけられている部活動は、体力、技能の向上はもとより、協調性や責任感、自主性を育むなど、生徒の人間的な成長にも大きな役割を果たすものであります。

「2 対象者」につきましては、

- (1) 学校部活動等の成果として、国際競技大会又は全国競技大会等において、顕著な成績を収めた生徒の指導に特に貢献のあったと認められる教職員
- (2) その他学校部活動等の指導者として、前号に掲げる者と同等の貢献のあったと認められる教職員 としております。

「3 表彰対象とする期間」につきましては、令和5年1月1日から令和5年12月31日までとしております。

「4 被表彰者」につきましては、運動部11名、文化部1名、計12名であり、氏名等は、記載のとおりであります。

いずれの方々も、日々の指導の中、生徒との信頼関係をしっかり深め、全国大会等において顕著な成績に導くなど、各部門で卓越した指導力を発揮されている指導者であります。

今回の表彰を大きな契機として一層の指導力の向上に励んでいただき、今後益々の活躍を期待しているところです。

なお、この表彰式は今週28日（金）に県庁内で行うこととしています。

また、28ページには、被表彰者についての実績等を参考資料として付けさせていただきます。

以上で、報告事項の説明を終わります。

【質疑】

特になし。

（北野教育長）

以降の審議は非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第 16 号 令和 7 ～ 1 0 年度使用中学校用教科書石川県教科用図書選定資料について

北島次長兼学校指導課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第 17 号 令和 7 ～ 1 0 年度使用中学校用教科書（「特別の教科 道徳」）石川県教科用図書選定資料について

北島次長兼学校指導課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第 18 号 令和 7 年度用一般図書選定資料について

北島次長兼学校指導課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第 19 号 石川県社会教育委員の委嘱について

岩木生涯学習課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第 20 号 石川県生涯学習審議会委員の任命について

岩木生涯学習課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

- ・ 閉会宣言

北野教育長が閉会を告げる。